

# パラグアイのグアラニー語とグアラニー文化の表象

藤掛 洋子

## はじめに

南米パラグアイ（人口672万人、2016年世銀）の公用語はスペイン語とグアラニー語である。パラグアイとは、グアラニー語で「大きな川」あるいは「鳥の冠を被った人々」という意味を持つ。メスティーンズの人口は全体の95%、先住民族はわずか1.7%であるものの8月25日はグアラニー語の日とされるなど、パラグアイにおけるグアラニー語は大きな意味を持つ。

先住民族についてはあらためて述べるが、パラグアイの先住民族は5つの語族、20の民族 (etnia)<sup>1</sup> に分類される (藤掛 2007)。写真の女性は首都アスンシオンで民芸品を路上で売るマカの女性である。マカの人々はスペイン語もグアラニー語も話さないことが多い。グアラニー語以外の言語がパラグアイにはあるにも関わらずグアラニー語が公用語となり、人々の日常に使われているのはなぜなのだろう。

三国同盟戦争 (Guerra de la Triple Alianza 1864～70年 対ブラジル・アルゼンチン・ウルグアイ連合軍) では敵に戦略が漏れないようにグアラニー語を駆使したことがよく知られている。この戦争で成人男性が多く亡くなり、人口が激減したことから、遺伝子学的にも「グアラニーの血」はほぼ途絶えたと指摘する研究者もあり (武田 2014)、急速な経済成長を遂げるパラグアイにおいて、グアラニー語を話さない人もいるものの、人々はスペイン語とグアラニー語が混在したジョパラ (Jopará, Yopará) を好んで使用する。早朝4時30分から放映されるグアラニー語のTV番組は人気があり、パラグアイの人々はマテ茶をのみながらこ



民芸品を売るマカの女性

(執筆者撮影)

表1 パラグアイの先住民族 (グループ・言語・人口)

グループ	言語 (Familia Linguistica)	民族 (Etnia)	合計	男性	女性
			86,540	44,651	41,889
トゥピ・グアラニー (Tupi Guaraní)	1 グアラニー (Guaraní)	西グアラニー (Guaraní Occidental)	2,155	1,085	1,070
		アチェ (Aché)	1,190	622	568
		アバ・グアラニー (Ava Guaraní)	13,430	6,992	6,438
		ウムブア (Mbya)	14,324	7,490	6,834
		パイ・タヴィテラ (Pái Tavytera)	13,132	6,697	6,435
		グアラニー・ニャンデバ (Guaraní Nandéva)	1,984	1,027	957
チャケーニョ (Chaqueño)	2 レンガ・モスコイ (Lengua Maskoy)	トバ・モスコイ (Toba Maskoy)	756	382	374
		レンガ・エンルハット・ノルテ (Lengua Enlhet norte)	7,221	3,724	3,497
		レンガ・エンクセット・スル (Lengua Enxet sur)	5,844	3,014	2,830
		サナバナ (Sanapaná)	2,271	1,193	1,078
		トバ (Toba)	1,474	751	723
		アンガイテ (Angaité)	3,694	1,844	1,850
		グアナ (Guaná)	242	117	125
	3 マタコ・マタグアージョ (Mataco Mataguayo)	ニバクレ (Nivacle)	12,028	6,214	5,814
		マカ (Maká)	1,282	650	632
		マンフイ (Manjui)	452	228	224
	4 サムコ (Zamuco)	アジョレオ (Ayoreo)	2,016	1,054	962
		シャマココ・イヴウトソ (Chamacoco Yvytoso)	1,468	766	702
		シャマココ・トマラホ (Chamacoco Tomáraho)	103	48	55
	5 グァイクル (Guaicuru)	トバ・コム (Toba-Qom)	1,474	753	721

出所：藤掛洋子 (2007)「グアラニー 先住民族女性が創りだす二一世紀」 綾部恒雄 / 監修、黒田悦子・木村秀雄編著 『講座世界の先住民族 ファースト・ピープルズの現在 08』 明石書店。

注：2012年の先住民族のセンサスは2002年のetniaとずれがあり、人口に関する異説もあるため、本論では古いものを参考に使用する。

の番組を見ていることが多い。2016年に日本へ私費留学をした27歳のメスティーソ女性は、海外でパラグアイ人と会い、グアラニー語を話すと泣きたくなったと話す。笑い話や冗談はグアラニー語で行われることが多く、グアラニー語の冗談をスペイン語に翻訳することはできないという。それは翻訳した段階で意味を失い、十分に伝えることができないからである、という。

2017年9月21日、カアグアス県 (Departamento de Caaguazú: グアラニー語で「偉大な薬草」、人口54万人) の公園のオープニングセレモニーが開催され、多くの市民が参加した。カアグアス市長や市議会議員、建築家などからの挨拶をジョパラで行われた。執筆者も1993年よりカアグアス県での国際協力に関わりを持たせて頂いていることから、式典で名誉市民賞を頂く機会を得た。開口一番の挨拶をグアラニー語で行ったことから、会場の参列者の方々から喜びの拍手を頂いた。

パラグアイの人々との信頼関係を構築するためには、そしてパラグアイの文化や人々の生活を深く知るためにはグアラニー語やグアラニー文化への理解が欠かせない。これらは人々のみならず国のアイデンティティの一つであると考えられるからである。以下では、パラグアイをより深く理解するために、先住民族の構成、グアラニー語の制度化、グアラニー語を守ろうとする人々について紹介し、グアラニー語と文化について考えてみようと思う。

### パラグアイの先住民族の構成

パラグアイの先住民族は、グアラニーとひとまとめに論じられることが多いが、トゥピ・グアラニー

(Guaraní) とチャケーニョ (Chaqueño) の二つのグループに分けられる (Súsnik y Chase-Sardi 1995 藤掛 2007)。このグループは5つの語族、20の民族<sup>1</sup> (etnia) に分類されている (藤掛 2007)。ススニックとチャセ・サルディ (Súsnik y Chase-Sardi 1995) に従うと、トゥピ・グアラニーが Guaraní Occidental、Aché、Ava Guaraní、Mbya、Pái Tavytera となり、チャケーニョが Zamuco, Mataco Mataguayo, Lengua Moskoy, Guaicuru になる (表1参照)。

2012年の先住民族人口は、112,848人であり、西部地域に53,879人、東部地域に58,969人が点在している (Dirección General de Estadística, Encuesta y Censo 2012)。チャケーニョはグアラニー語を話さない (前頁右上の写真説明参照)。首都アスンシオンへの先住民族の移動が多く見られ、1981年は150人、1992年は735人、2002年は1,130人、2012年は2,458人となっている (上記同資料)。そのため首都アスンシオンで民芸品を販売するマカの女性たちはグアラニー語もスペイン語を話さないが、若い世代ではスペイン語を話す人々も出てきている。

### グアラニー語の制度化

1992年に制定されたパラグアイ共和国憲法第140条に示されているとおり、パラグアイではスペイン語とグアラニー語が公用語であり、特に農村部では日常生活においてグアラニー語が用いられている。一方、グアラニー語話者は農村部に多く、農村部の人々や先住民族、そして先住民族女性の社会的地位は相対的に高いとは言えない (表2 藤掛 2007 252頁)。グアラニー語を話す人は相対的に経済に困窮し、出生率も高い傾向にある。つまり、グアラニー語話者の社会的地位

表2 パラグアイ社会における先住民族男性 / 先住民族女性の位置づけ

	「人種」的な区分と序列	居住空間と階層	主要な集団カテゴリー	移民集団のカテゴリー
パラグアージョ / ジャ (Paraguayo/a)	白人 (blanco: ブランコ)	都市在住	ブランコ、パラグアージョ / ジャ、アスンセーノ / ナ (Asunceno/a: アスンシオンの人々 <sup>注1</sup> ) など	ニッケイ (Nikkei: 日系人)、アレマン (Aleman: ドイツ人)、イタリアーノ (Italiano: イタリア人)、メノニータ (Menonita)、チノ (Chino: 中国人)、コレア (Korea: 韓国人) など
	メスティーソ (mestizo: 97%)		メスティーソ、パラグアージョ / ジャ、オベテンセ (Ovetense: オビエド在住の人々 <sup>注2</sup> ) など	
	先住民族 (indígena: インディヘナ) <sup>注3</sup>	農村在住	カンペシーノ (Campesino: 農村男性) カンペシーナ (Campesina: 農村女性)	
		都市 農村在住	先住民族男性 先住民族女性	

出所: 藤掛洋子 (2007) 「グアラニー 先住民族女性が創りだす二一世紀」 綾部恒雄 / 監修 黒田悦子・木村秀雄編著 『講座世界の先住民族 ファースト・ピーブルズの現在 08』 明石書店 252頁

注1 首都アスンシオン (Asunción) 在住の人々

注2 地方都市在住の人々

注3 パラグアイには、5語族、20民族に属する約8.7万人 (2002年) の先住民がおり、そのうち91.5%が農村地帯で集落を形成している。

なお、都市や地方都市には、スラムがあり、土地なし農民や仕事についていないメスティーソが居住している。

これらの人々は居住空間と階層の関係が錯綜しているため本表には入れていない。

がスペイン語話者よりも低いことが指摘できよう。

しかし、グアラニー語の制度化は進んでいる。1994年に初めてアスンシオン国立大学哲学科において語学としてのグアラニー語のクラスが設置された。2010年にパラグアイ政府は言語法令を発令し、グアラニー語を一般化させるために言語政策庁 (Secretaría de Políticas Lingüística) を発足させた (言語政策に関する決議: No.838/13、2013年8月立案、2016年8月10日施行)。文字のなかったグアラニー語に文字を付けることは昔から行われてきたが、正書法を教える準備はじまった。グアラニー語のさらなる制度化が始まったといえよう。

オラシオ・カルテス現政権の間、政府機関の名前やロゴなどにもグアラニー語を併用することが義務付けられた (2013-18年 政令 No.500)。法廷では裁判官がグアラニー語で証言などを聞き取り、判決文などもグアラニー語で発行されるような取り組みも始まった。2015年3月には大学におけるグアラニー語の単位取得が義務付けられ、アスンシオン国立大学建築学部・医学部・法学部のようにグアラニー語話者と接触が多いと想定される職業につく学生たちは、少なくとも相手が言っていることが分かるレベルのグアラニー語の運用能力を持つようカリキュラムの変更が行われた。

### グアラニー語を守ろうとする人々

誰がこのようにグアラニー語の推進をしているのだろうか。パラグアイにはグアラニー語で毎朝放送されるTV局があることはすでに述べた。ここで紹介するR氏はこのTV局を創設した人物であり、また、教育文化省にある二言語委員会の顧問も務めている。グアラニー語を守ろうとするキーパーソンであると考えられる。以下、R氏の語りの一部を紹介する<sup>2)</sup>。

「祖母はグアラニー人で、母はシングルマザーでした。私たちが路上で暮らしているのに、彼 (当時のストロエスネル大統領) は私たちのような貧者に手を差し伸べることも、教育の機会を与えることもしませんでした。私たちは腐った野菜を拾って食べ、兄弟で生き延びました。私は独裁政権に対し抵抗するために、グアラニー語で詩を作ったり、先住民族の踊りを踊ったりして、道でお金を稼ぎました。それから水汲みをしたり、タバコやキャラメルを道で売ったり、庭師をしたり色々なことをしました。お金を貯めて勉強を続けました。小学校を終了し、中学校を終了し、軍隊に入り、高校を終了し、アスンシオン国立大学に入りました。工学を学びましたが弟達を養うために途中でリタ

イアし、再び入学し、ジャーナリズムや言語学を学び続けました。パラグアイ人として初めて言語学の博士号を取得したのも私です。」

R氏は、グアラニー語を一般化させるために尽力し、グアラニー語学会の創立メンバーの一人でもある。この学会には30人程のメンバーがおり、グアラニー語の基本を定めたり、正式な辞書を作るための活動をしたりしている。しかし、メンバーそれぞれのグアラニー語に対する解釈が異なるため、問題も多いという。

教育文化省のグアラニー語教育の方針についても問題が指摘されている。教育文化省は、「正しい」グアラニー語を教えるために、グアラニー語の表現がない場合は、新語を作る方針をとってきた。しかし、生徒はもちろん、グアラニー語を話す家族や教員たちに新語はあまり受け入れられなかったという。「難しい単語がどんどん増え、グアラニー語は難しいものだ」と思われ始めたため、教育文化省は、一般的に話されるグアラニー語を教えるように方向転換を図った。結果、パラグアイにおけるグアラニー語は新語派と一般用語派が対立し、現在もその問題が続いているとR氏は説明する。

遺伝子学的に「グアラニーの血」はほぼ途絶えたとされるパラグアイにおいて、街中にあるグアラニー語とスペイン語の併記の看板は、パラグアイ民族のグアラニー語への愛着と解釈されるが、実際には、グアラニー語に強い「思い入れ」を持つものたちや政府関係者により定められ、法令で併記を義務付けられたことによる。その看板には、教育文科省が中止した新語が書かれるケースもある。県庁や市役所は法令どおり町の入り口に「〇〇市によるこそ」とスペイン語で書き、その隣にグアラニー語でも同じことを書かなければならないが、「書き方が分からないため、新語派の人たちに表現を尋ね」、結局誰も意味が分からないグアラニー語が看板などに書かれるという事態も起きているという。

旅行者がパラグアイの町で看板を見ると、「グアラニー語が使われていて素敵だ」と思っても、現地では意味は通じないということが起こっているのである。

### グアラニー文化の表象

メスティーソが人口の95%を占めるパラグアイにおいて、グアラニー族へのアイデンティティのある言語学者が、法律を制定し、5語族、20民族の中でも特にグアラニー語を文化として発信しようとしている。

これは独裁政権時代に社会保障もなく、国家により見捨てられてきた路上に住むグアラニーの血を引く一人の人間の戦いであるようにも思われる。2011年に発令された言語法令にはいくつかの解決すべき課題があり、新語派とジョパラ派に分断され、グアラニー語教育は混沌としていると考えられる。2014年には政府機関の名前やロゴなどにもグアラニー語を使用するようになり2015年には大学におけるグアラニー語の習得が義務付けられた。このような動きを牽引していたのが、繰り返しになるが独裁政権時代に社会保障もなく、国家より見捨てられ路上に住むグアラニーの血を引く一人の現代の知識人なのである。そして彼のような人物が発信するグアラニー文化が人々を惹きつけているように思われる。

グアラニー語には戦争や貧困、格差などが連想されることから嫌悪 (odio) もあるといわれる。パラグアイ社会におけるグアラニー語は複数の課題を抱えつつ

も、パラグアイ社会の文化を表象するものであり、愛 (amor) と嫌悪 (odio) が同居することから人々を惹きつけてやまないのかもしれない。

(ふじかけ ようこ 横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院教授)

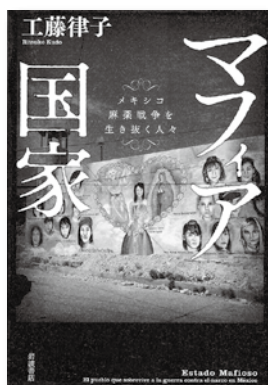
#### 引用参考文献

藤掛洋子 (2007) 「グアラニー先住民族女性が創りだす二世紀」綾部恒雄監修 黒田悦子・木村秀雄編著『講座世界の先住民族ファースト・ピープルの現在 08』明石書店 .251～268頁  
藤掛洋子 (2015) 「パラグアイにおけるグアラニー文化と表象」、『日本ラテンアメリカ学会第36回大会要旨集』。

119と示す資料もある。

2 藤掛 (2015) ならびに 2015年3月23日、2017年9月21日に実施した執筆者のインタビューによる。

## ラテンアメリカ参考図書案内



### 『マフィア国家 - メキシコ麻薬戦争を生き抜く人々』

工藤 律子 岩波書店

2017年7月 246頁 1,900円+税 ISBN978-4-00-02482-2

英国の調査機関によれば2016年のメキシコで起きた殺人件数は約26,000件、内戦中のシリアに次ぐ。その主因は麻薬カルテル絡みというが、もはや「麻薬カルテル」という呼び名は的外れで麻薬、違法薬物をはじめ武器密売、石油横流し、臓器売買、DVD等海賊版販売等のビジネス、そして誘拐を展開している。それを可能にしているのは、政治家、企業、警察、司法関係者を含む公務員との直接・間接ネットワークであるが、双方の関係が組織的に安定していたPRI(制度的革命党)一党独裁時代が終わり、2016年カルデロン政権下で軍・軍警を投入しカルテルと対峙して以来、大企業化したカルテル同士と三つ巴の「麻薬戦争」により、標的は一般市民に無差別に及ぶようになった。

麻薬戦争の一番の犠牲者は子どもであり、暴力が子どもたちを飲み込み麻薬犯罪組織に入る若者は若年化し、孤児や誘拐によると思われる失踪者、性的目的での売買の犠牲になる女性が激増している。これらに対して、メキシコ等で貧困層、ストリートチルドレン問題の取材に関わってきたジャーナリスト(『マラスー暴力に支配される少年たち』集英社2016年の近著もある)が、家族を探す人々、NGO、市民運動家、ジャーナリスト等、多くの立ち上がる人々にインタビューしたのが本書である。特定の犯罪組織が一定の地域を制圧し、国家機関内部の人間と結託した時にのみ「マフィア的平和」が維持されるという現況に対して、「メキシコにはもう一度革命が必要」と「マフィア国家」からの再生に立ち上がる動きを紹介している。

(桜井 敏浩)